

# 港南・亀ヶ崎地区 避難所運営マニュアル

— 生きる、地域の絆で。 —

## 【基本編・個別編】

暫定版（R3. 4）

酒田市

酒田市教育委員会

酒田市自主防災協議会

港南コミュニティ振興会

亀ヶ崎コミュニティ振興会

# 1 本マニュアルの目的と使い方

## (目的)

東日本大震災、熊本地震で、いくつかの避難所運営の課題が見えてきました。東日本大震災では、多くの学校（避難所）で**先生方が家庭を顧みず避難所運営**にあたり疲労困憊したケースや、地域の**自主防災組織のみ対応したケース**がありました。熊本地震のある町では、**町職員が総力をあげて対応したため災害対策本部が機能しなかったケース**がありました。いずれも、適切な対応ではありません。

万が一の際、避難所を円滑に運営するためには、地域（自主防災組織）、学校、市の適切な協力体制と適切な役割分担が必要です。

そのため、事前の避難所として利用可能なエリア、夜間等の鍵の取り扱いなどの協議を踏まえ、港南・亀ヶ崎地区における地域（自主防災組織）、学校、市の共有の避難所運営マニュアルを作成したものです。

なお、**大規模地震が発生した場合など市内全域で大きな被害が発生した場合**を想定したものです。

## (使い方)

災害が発生した場合、地域（自主防災組織）、学校、市が連携して、すぐに避難所を開設できるよう、運営委員会の運営、各班の運営について何をすべきかを具体的に記載しています。必要箇所については、チェックリストを設け、誰もが確認できるように構成しています。

マニュアルは、避難所に対する基本的な考え方のほか、港南・亀ヶ崎地区の事前協議内容、災害危険性、備蓄状況などを踏まえた【基本編・個別編】と実際の運営の際に活用する市共通の内容の【運営編・共通偏】で構成されています。目的や用途にしたがってご活用をお願いします。

## 目次【基本偏・個別偏】

1	本マニュアルの目的と使い方	
2	避難所に関する基本的事項	1
(1)	避難場所と避難所	1・2
(2)	避難所運営の基本方針	3～5
(3)	港南・亀ヶ崎地区の災害危険性	6
(4)	港南・亀ヶ崎地区の避難所及び収容人数	7
(5)	港南・亀ヶ崎地区避難所別確認事項	8・9
(6)	港南・亀ヶ崎地区避難所の運営委員会体制（候補者及び代理者）	10
(7)	港南・亀ヶ崎地区避難所各班長（候補者及び代理者）	11
(8)	避難所運営Q＆A	12・13
資料1	港南・亀ヶ崎地区指定緊急避難場所及び指定避難所	14
資料2	亀ヶ崎小学校校舎等図面	16
資料3	港南コミュニティセンター防災資機材	18
資料4	港南・亀ヶ崎地区関係備蓄	23

## 2 避難所に関する基本的事項

まずは、地震から身を守る行動を。

津波の可能性がある場合は、より高くより遠くに避難してください。

その後

### (1) 避難場所と避難所

#### ① 避難場所（公園など）

まずは、**避難場所**に  
避難しましょう。



▶ 地震災害発生直後に、住民が家屋倒壊の危険などから身の安全を守ったり、自主防災組織による避難行動や安否確認を実施したりするために集合する場所です。

- ▶ 避難場所は、市で近隣の公園や広場の中から決めています。
- ▶ 災害（地震）発生後、まずは避難場所に避難します。
- ▶ 自分の自治会では、どの避難場所に避難するかを確認してください。

○港南・亀ヶ崎地区の避難場所（例、地震の場合）

札の前公園、末広公園、東中の口公園、酒田東高等学校グラウンド、亀ヶ崎小学校グラウンド、亀ヶ崎二丁目公園、亀ヶ崎公園、亀ヶ崎四丁目公園、亀ヶ崎五丁目公園、亀ヶ崎六丁目公園、瑞穂西公園、西川原北公園、西川原中央公園、港南コミュニティ防災センター駐車場、港南公園、若竹町東公園、若竹町中央公園、若原公園、亀ヶ崎コミュニティ防災センター

（災害ごとに、避難場所を指定。津波の場合は、酒田東高等学校グラウンド、西川原北公園、西川原中央公園、港南コミュニティ防災センター駐車場、港南公園、若竹東公園、若竹中央公園は不可。）

上記のように、基本的には避難場所は、屋外の広い場所となります。

※水害の場合のみ、別途建物が指定されています。

## ② 避難所（市内小中学校など）

**避難所**は生活をする場です。



### ▶ 自宅の倒壊等の事情のある方が一定期間生活をする場所です。

- ▶ 原則として災害対策本部が被害状況により判断し開設します。
  - ▶ 避難所が開設された場合に市は避難所に担当職員を派遣します。
  - ▶ 自主防災組織・避難者・市・学校等が協働して運営します。
  - ▶ 市は、市内各小中学校にアルファ米などの食料や物資を備蓄しています。
  - ▶ 避難所には、支援物資などが直接配送されます。（例：松陵小、一中、武道館等）
- ＊ 避難所は、避難所周辺の地域住民が主な避難者となることから、特に地域の中では、避難した場合の運営方法などについて、平時から話し合いを行っておくことが重要です。

#### ○港南・亀ヶ崎地区の避難所

亀ヶ崎小学校、酒田東高等学校、旧港南小学校、市体育館、港南コミュニティ防災センター

※避難場所、避難所とも各地区ごとに指定されていますが、災害時の所在により、どこに避難してもかまいません。安全を確保することを第一に考えてください。

## (2) 避難所運営の基本方針

### ◎運営の基本的方向性

避難所は、「自主防災組織・避難者」、「酒田市」、「学校」が協働し運営します。

- ▶ 避難所運営に必要な様々な活動を円滑に行うため、避難所では、自主防災組織及び避難者、酒田市が派遣する避難所連絡員（駐在）、学校職員などが連携して運営します。
- ▶ 避難所では、そこにいる方全員が世代や性別に関係なくそれぞれの役割を果たすとともに、情報を共有しながら、相互に連携して各種活動を実施します。

#### ① 「自主防災組織」とその役割

- ▶ 地域のコミュニティ振興会や自治会などの団体で、自主防災に取り組んでいる方々です。
- ▶ 特に避難所開設当初において、円滑に運営を開始するために、自主防災組織が中心となって運営委員会を設置し、避難所の運営を担います

#### ② 「避難者」とその役割

- ▶ 避難者は、避難所運営委員会の指示のもと、避難所の各種活動を積極的行います

- 避難所運営委員会は、時間の経過とともに自主防災組織中心から避難者中心へと移行し、避難者による自主的な運営を行っていきます。

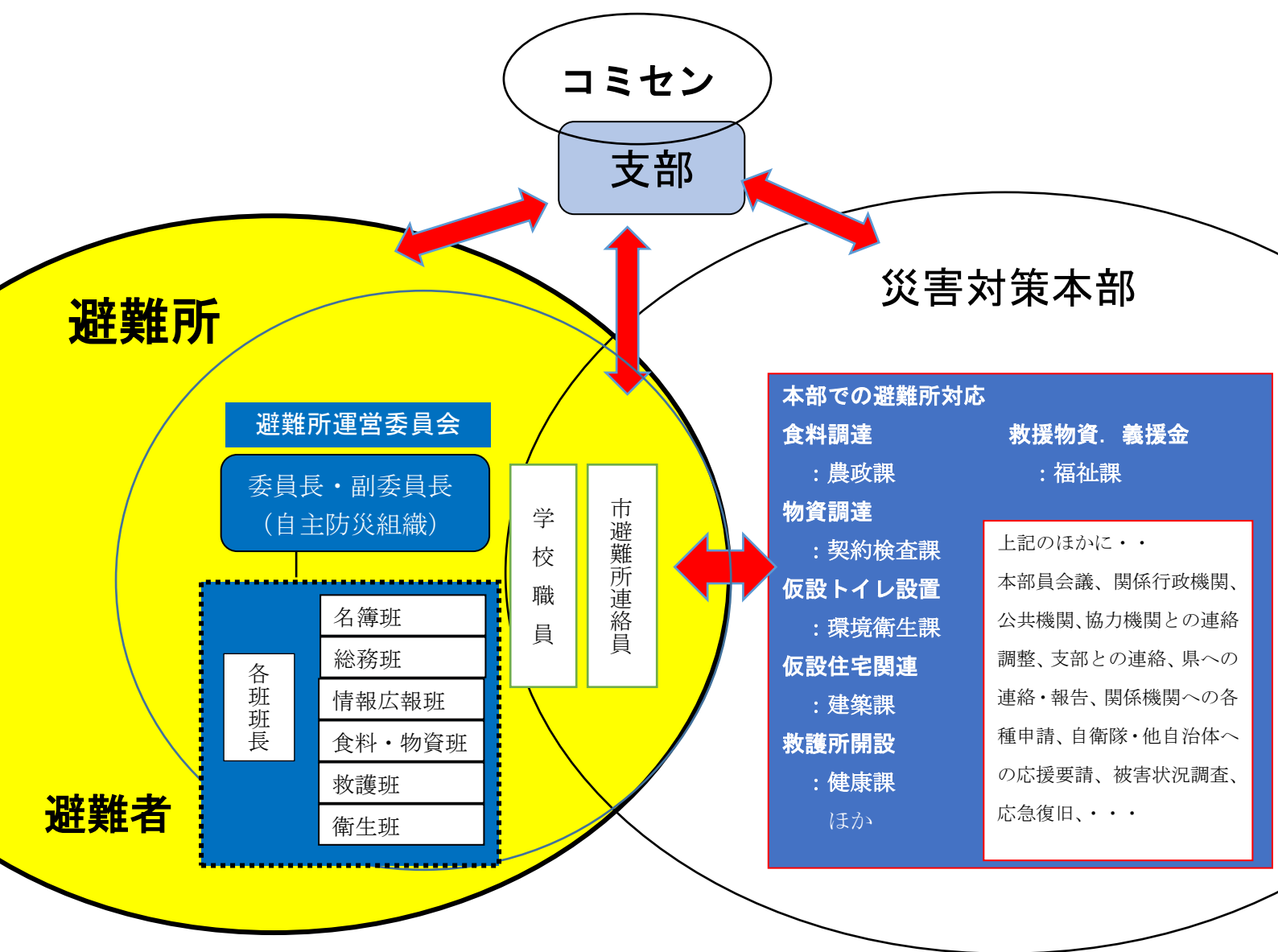
#### ③ 「学校職員」とその役割

- ▶ 避難所となる学校の職員です。
- ▶ 避難所内の居住スペースや共有スペースを設置する際に調整や助言を行うなど、施設の活用に関することを中心に運営の支援を行います。
- ▶ 学校職員は、児童・生徒の安全確保と保護者への引継ぎを最優先に行います。完了後は、避難所の初動体制をサポートします。また、学校再開へ向け環境を整えます。

#### ④ 「市避難所連絡員（駐在）」とその役割

- ▶ 酒田市から避難所に派遣され連絡員として駐在する職員です。災害が発生し、避難所が開設されたときに各避難所へ派遣されます。（派遣される職員以外に各コミセンには支部指定職員を配置しています）
- ▶ 避難所連絡員は、避難所運営委員会の活動全般に携わるとともに、主に市（本部、支部）との情報連絡を行い、避難所内の課題解決に向けて要請や調整を行います。
- ▶ 避難所連絡員（駐在）のほかに、災害対策本部にいる職員も、食料調達、物資調達など各避難所業務を直接かつ総合的に支援します。

避難所運営委員会組織図及び本部との連携イメージ



## ◎ 開設の優先順位

地域の中には、多くの避難所が開設される場合があります。酒田市では、次の優先順位により開設し対応します。

(優先順位)

**1 小学校、2 中学校**

3 その他の公共施設 4 県立高校、私立高校等

- ▶ コミュニティセンターも避難所として指定されていますが、災害対策支部を兼ねており、災害時はあらかじめ指定されている支部指定職員が参集し、情報集約等の役割を担います。避難所として利用する場合は、小学校と連携しながら臨機応変に対応していきます。
- ▶ 小学校、中学校は、最優先に開設するものとし、事前に市職員を避難所連絡員（駐在）に指定して対応します。
- ▶ 上記以外のその他の公共施設、県立高校、私立高校などについては、小学校・中学校でも収容しきれない場合に開設するものとし、避難所担当職員は、設置の際に災害対策本部市民班で決定します。



### (3) 港南・亀ヶ崎地区の災害危険性

#### (地形)

学校と学区の大部分は沖積低地にあつて、砂や粘性土からなる軟弱な地盤の上に位置している。入船町・山居町は酒田港に近く、堤町・若竹町・若原町は最上川下流に隣接し、亀ヶ崎一丁目・千石町・東中の口町を新井田川が流れている。

#### ◇想定される災害

##### 地震

庄内平野東縁断層帯の地震時の予想震度は震度6強。学区の震度は市内でも大きい。  
平成23(2011)年の東日本大震災の際には、振幅の大きな揺れが長時間継続した。

##### 津波

日本海東縁部の佐渡島北方沖を震源とするマグニチュード8.5の地震を想定した場合、学区における津波の想定振水域及び想定到達時間は以下の通り。

- ・入船町、山居町、堤町：15分で2.0m以上5.0m未満
- ・若竹町、若原町、千石町、末広町、東中の口町：35分で1.0m以上2.0m未満
- ・亀ヶ崎、みずほ：45分で0.5m以上1.0m未満

##### 液状化

液状化の危険性は高い。(地震時に校舎と地面の落差、地割れ、噴水、噴砂の可能性)学区内に緩い砂質土が分布し、地下水位が高いため。同一地点で繰り返し発生している箇所が多いとの記録がある。

##### 土砂災害

学区の大部分は低地の平野であるため、土砂災害の危険性はない。

##### 洪水

最上川堤防決壊の場合、港南地区では4.0m以上5.0m未満、学校周辺は1.0m以上2.0m未満程度浸水すると予測されている。強い雨が降るとよく冠水する箇所が松山街道に数箇所ある。

##### その他

昭和39(1964)年新潟地震の際には、旧港南小(当時は酒田三中)のグラウンドで地割れが発生し、女子生徒1名が地面に挟まり犠牲となった。

## (4) 港南・亀ヶ崎地区の避難所及び収容人数

指定避難所	施 設 ①：亀ヶ崎小学校	(TEL：0234-22-0455 ) 【体育館／ 397 人 】 【(仮)普通教室／ 324 人】
	施 設 ②：酒田東高等学校	(TEL：0234-22-0456 ) 【収容可能人数／ 579 人 】
	施 設 ③：	(TEL： ) 【収容可能人数／ 】
	施 設 ④：	(TEL： ) 【収容可能人数／ 】

※亀ヶ崎コミュニティ防災センター、港南コミュニティ防災センターも避難所として指定されています。

①と連携して対応します。

(収容人数の算出方法)

・体育館等の場合対象面積を  $3.3 \text{ m}^2$  (畳一枚＋通路分) で割り返したもので、通路等の取り方、配置手法により実際の収容人数とは異なります。

・また、感染症を考慮した場合、収容人数は上記人数の 0.55 倍になります。(対象面積を  $6.0 \text{ m}^2$  (1区画 (2m×2m)、通路幅 1m) で割り返します。)

・小中学校については、要援護者(妊婦、障がい者、高齢者など)の避難所への収容を考えると、教室の活用が必要となります。仮に、一律に普通教室×18人で算出しています。

今後、避難所運営訓練を実施する中で、具体的な避難者数を検証する必要があります。

(補足資料)

酒田市の最大被害想定避難者数 16,368 人

港南・亀ヶ崎地区での最大避難者数(按分) 1,728 人

亀ヶ崎小学校収容人数 721 人

## (5) 港南・亀ヶ崎地区避難所別確認事項

避難所①	市立亀ヶ崎小学校	
運営委員会予定者	亀ヶ崎コミュニティ振興会	(TEL : 0234-43-6170)
	会長 港南コミュニティ振興会	(TEL : 0234-22-4473)
	会長	
施設管理者	亀ヶ崎小学校 校長	(TEL : 0234-22-0455)
避難所担当職員	(学校) 亀ヶ崎小学校 教頭	(TEL : 0234-22-0455)
	(市) 避難所連絡員	(TEL : 0234-26-5770)
	薄木 太一 (議会事務局) 櫻井 寛 (市民課)	(TEL : 0234-26-5723)
利用可能な部屋	1 階ホール、ランチルーム、4 階和室 (妊婦、要支援者)、各階空教室	
鍵の保有者 (連絡先)	施設	亀ヶ崎小学校 教頭 菅原 智法
	自主防災組織 市職員	港南コミュニティ防災センター 亀ヶ崎コミュニティ防災センター 避難所連絡員 (2名) 及び 支部指定職員 (班長) が保管
開錠 安全確認	<input type="checkbox"/> 学校職員がいる時間 学校職員が行う <input type="checkbox"/> 学校職員がいない時間 学校、市、自主防災会が協議し対応するが、状況によっては、自主防災会の判断により開錠し避難者を受け入れる。	
運営ルール	○基本的な役割分担の方向性 ・港南、亀ヶ崎学区コミュニティ振興会 各避難所の運営 (運営委員会) を担う。 ・亀ヶ崎小学校 避難所運営の初動体制を担う。施設に関する対応を行う。 (児童・生徒の安全確保、保護者への引渡しを優先) ・酒田市 避難所連絡員 (駐在) を配置し、災害対策本部、支部との連絡、	

	<p>調整にあたる。</p> <p>○女性に配慮した運営とする。（運営委員会に女性を入れる。）</p> <p>○緊急の場合は、自主防災会で安全確認ができれば、体育館の鍵を開けて避難者を受け入れる。</p>
--	--

（その他避難施設）

避難所② 酒田東高等学校（施設管理者 山形県）

避難所③ 港南コミュニティ防災センター（施設管理者 酒田市）

避難所④ 亀ヶ崎コミュニティ防災センター（施設管理者 酒田市）

上記の施設は、小学校で収容しきれない場合に開設するものとし、学校施設の場合同様に対応する。

○基本的な役割分担の方向性

- ・港南コミュニティ振興会、亀ヶ崎コミュニティ振興会

各避難所の運営（運営委員会）を担う。

（他学区からの避難が想定されるが、当初は各コミュニティ振興会が運営（運営委員会）を担う。）

- ・施設管理者

避難所としての施設管理を行う。

- ・酒田市

避難所連絡員（駐在）を配置し、災害対策本部、支部との連絡、調整にあたる。

## (6) 港南・亀ヶ崎地区避難所の運営委員会体制 (候補者及び代理者)

### ① 亀ヶ崎小学校

運営委員会委員長	コミュニティ振興会長
代理者 1	〇〇自治会長
代理者 2	〇〇自治会長
代理者 3	〇〇自治会長
代理者 4	〇〇自治会長
代理者 5	〇〇自治会長

(初動時)

※災害時点に、必ず参集できるとは限らないため、副委員長候補として事前に一定数の代理者を決めておく。委員長が参集できない場合は、代理者で参集した方が避難所開設の指揮にあたるものとする。

## (7) 港南・亀ヶ崎地区避難所各班長（候補者及び代理者）

### ① 亀ヶ崎小学校

（例）

名簿班長	〇〇自治会防災部長
代理者	〇〇自治会防災部員
総務班長	■ ■自治会防災部長
代理者	■ ■自治会防災部員
情報広報班長	△△自治会防災部長
代理者	△△自治会防災部員
食料・物資班長	▲▲自治会防災部長
代理者	▲▲自治会防災部員
救護班長	◇◇自治会防災部長
代理者	◇◇自治会防災部員
衛生班長	□□自治会衛生部長
代理者	□□自治会衛生部員

開設時に決める手法もありますが、担当自治会を決めておければスムーズな活動が期待できる。

## (8) 避難所運営 Q&A

地域、学校、市の話し合い（事前協議）で出された主な意見を踏まえて Q&A を作成したものです。事前にご確認をお願いします。

### （避難所の開設者は）

Q：避難所の開設は誰が判断するのか。

A：原則、市災害対策本部が判断し、開設します。避難所施設として、各小中学校、コミュニティセンター、市営施設など様々な施設が指定されていますが、開設の優先順位は、小学校、中学校からとなります。

### （避難所開設前の対応）

Q：避難所開設前に避難してきた場合はどうなるのか。

A：夜間や早朝などの場合、市や学校と連絡が付かない場合が想定されます。また、現実的には災害対策本部の指定は時間がかかり後追いになると考えられます。施設に問題がなければ各地区のコミュニティセンターや自治会長の判断で受入をしてもらうことになります。事前協議の際、コミュニティセンター等に指定避難所となる小中学校の体育館の鍵を配備しています。

### （災害時の自治会長の役割）

Q：コミュニティ振興会の役員は、自治会長である。災害が発生した場合は、自治会長としての災害時の職務があり対応が難しいのではないかな。

A：必ずしもコミュニティ振興会の代表者等が避難所運営委員会を担わなければならないということではありません。避難所運営が円滑となるよう地域全体で分担する手法を考えていただければ幸いです。第 1 回目話し合いの際も、地域によっては、自らの自治会に対応は副会長にゆだねるといったケースや全体として今後検討していくといったケースがありました。

### （災害対策本部支部の関係）

Q：コミュニティセンターと学校の距離がある。災害対策本部支部の業務の関係はどうなるのか。

A：災害時の自治会長の役割と同様に、避難所運営が円滑となるよう地域全体で分担する手法を考えていただければ幸いです。第 1 回目話し合いの際も、地域によっては、自らの自治会に対応は副会長にゆだねるといったケースや全体として今後検討していくといったケースがありました。

### （避難者の自主運営）

Q：避難所の運営は、避難者の自主運営となるならその仕組みを考えればいいのか。コミュニティ振興会が行うものでないのでは。

A：避難所は、避難者の自主運営が基本となりますので、一定期間経過後にはそのような体制に切り

替えることになります。ただし、災害発生直後の混乱した状態ではそのような体制をすぐに築くことは困難であり、初動期において、地域（自主防災）のリーダーの皆様はその役割をお願いすることで円滑な避難所運営につなげようとするものです。

#### （指定避難所以外の避難）

Q：学校までは距離があり、学校へ避難することは現実的でない。基本的には、地域内の自治会館へ避難することになる。避難所は、市で指定している以外の場所への避難は禁止なのか。

A：安全が確認できる場所であれば、指定している避難所以外への避難でもかまいません。しかし、指定避難所となる小中学校以外の場所への食料等の備蓄はありません。また、支援に一定の時間がかかることが想定されます。また、食料等は指定避難所に取りにきていただくのが原則となります。

#### （地域内に学校がない場合の優先開設避難所）

Q：地域（コミュニティ振興会区域）には学校が存在しない。別の施設を避難所として優先開設することはできないものか。

A：小中学校がコミュニティ振興会区域にない場合は、地域の実情に合わせてコミュニティセンターなど地域内にある施設を優先開設します。

#### （避難所の優先順位）

Q：なぜ優先順位をつけるのか。体育施設含め一斉に開設はできないのか。

A：大災害時を考えると、小中学校には大きな収容能力があるとともに、災害用の備蓄があることから優先開設するものです。優先開設により、輸送の効率化が図られ円滑な運営が可能となります。無論、収容能力に問題があれば順次拡大していきます。

#### （地区外の避難所への避難）

Q：自分の自治会では、コミュニティ振興会内の避難所ではなく、中学校（小学校区外）に避難したいと考えているがどうか。

A：地域外の小学校へ避難する場合も含め、必ず地域内の避難所へ避難しなければならないものではありません。ただし、避難する避難所は自治会ごとに予め決めていただければと思います。加えて、避難所運営への協力をお願いいたします。

#### （津波被害の可能性がある避難所）

Q：学校は、浸水区域ではないが津波被害の可能性は否定できない、別の場所を避難場所とすべきではないか。

A：避難所は、危険が回避されていることが大前提となります。まずは、地震から身をまもり、津波の可能性がある場合はより高くより遠くへ避難することになります。避難所は、津波の可能性がなくなった時点での開設となります。状況によっては、開設を見合わせます。

#### 資料1 港南・亀ヶ崎地区指定緊急避難場所及び指定避難所



## ① 指定緊急避難場所

※所在地については住居表示と地番表示があります。

※受入人員については、一人当たり3.3㎡で算出しています。

※各災害の列において、「○」表示は当該列の災害において適切な避難場所であることを、無印は当該列の災害の避難場所として適切でないことを、「／」表示は地区内において当該列の災害の危険性がないことを意味します。

※津波災害においては、「×」表示は浸水想定区域内であり避難が不可能であることを意味します。「▲」表示は浸水想定区域外であるがバッファゾーン(要避難区域)として本市独自に設定した区域内に所在するため、避難には注意が必要であることを意味します。

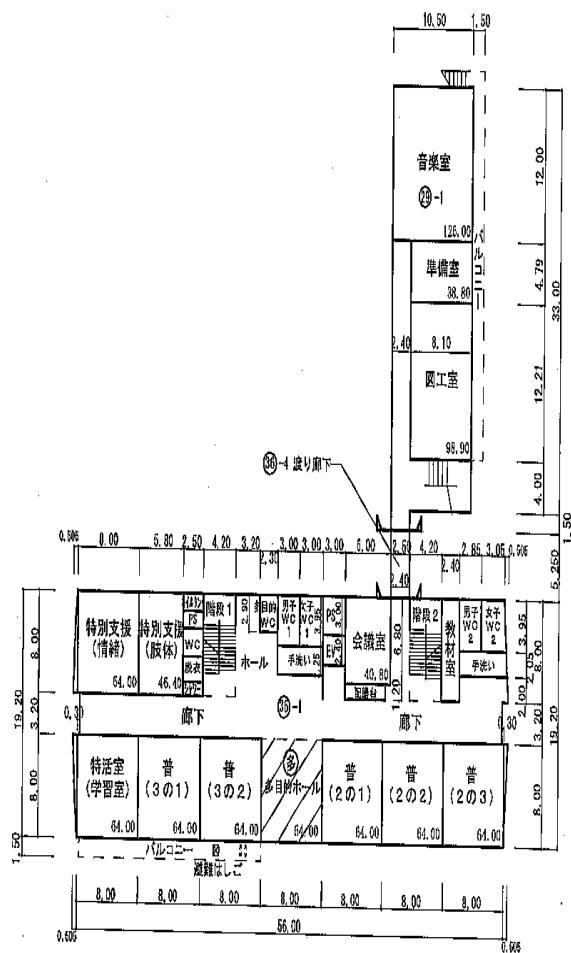
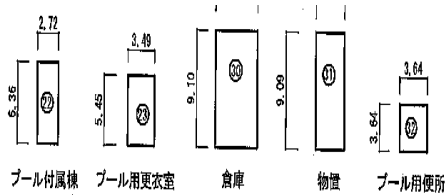
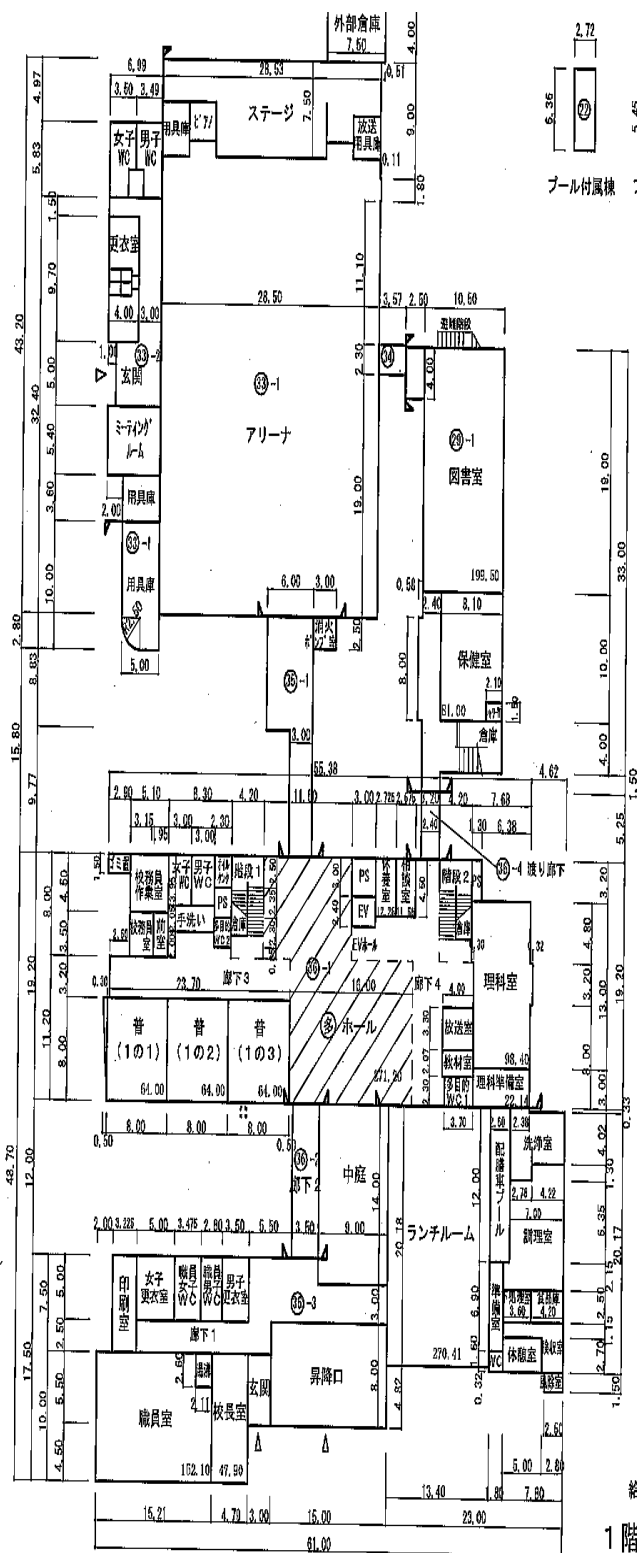
洪水	崖崩れ、土石流及び地滑り	高潮	地震	津波	大規模な火事	内水氾濫	火山現象	名称	所在地	標高	受入人員
			○	▲				札の前公園	末広町 17-5	2.0m	364 人
				▲				酒田市上下水道部	末広町 14-14	2.1m	477 人
			○	○				末広公園	末広町 98-1	2.5m	394 人
			○	▲				東中の口公園	東中の口町 19-26	2.0m	364 人
				▲				酒田東高等学校校舎	亀ヶ崎 1-3-60	3.8m	923 人
			○	▲	○			酒田東高等学校グラウンド	亀ヶ崎 1-3-60	3.1m	3,850 人
○				▲		○	○	亀ヶ崎小学校校舎	亀ヶ崎 2-3-55	2.9m	1,805 人
			○	▲	○			亀ヶ崎小学校グラウンド	亀ヶ崎 2-3-55	2.4m	3,901 人
			○	▲				亀ヶ崎二丁目公園	亀ヶ崎 2-3-55	2.8m	576 人
			○	▲	○			亀ヶ崎公園	亀ヶ崎 3-514	2.9m	6,364 人
				○			○	亀ヶ崎コミュニティ防災センター	亀ヶ崎 3-13-25	2.9m	119 人
			○	▲				亀ヶ崎四丁目公園	亀ヶ崎 4-64-2	2.8m	394 人
			○	▲				亀ヶ崎五丁目公園	亀ヶ崎 5-1-14	2.8m	273 人
			○	○				亀ヶ崎六丁目公園	亀ヶ崎 6-4	2.9m	758 人
			○	▲				瑞穂西公園	みずほ 1-115	3.0m	606 人
			○	×				西川原北公園	千石町 1-6-35	1.7m	697 人
○				○				セレモニーホール酒田 【津波避難ビル】	千石町 1-11-22	2.6m	739 人
				○				日本海酒田リハビリテーション病院 【津波避難ビル】	千石町 2-3-20	2.4m	2,711 人
			○	▲				西川原中央公園	千石町 2-15-2	2.2m	697 人

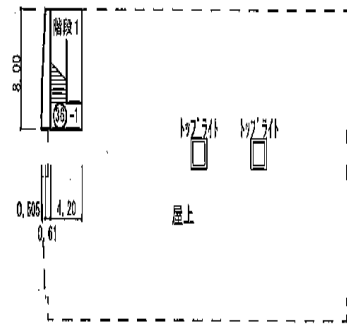
○				○			山新放送庄内会館 【津波避難ビル】	山居町 1-5-21	2.5m	1,154 人
○				○			庄内JAビル 【津波避難ビル】	山居町 2-3-8	3.1m	1,825 人
				○			ヤマザワ山居町店屋上駐車場	山居町 2-5-5	2.5m	424 人
○				○			ホテルリッチ&ガーデン酒田 【津波避難ビル】	若竹町 1-1-1	2.6m	1,615 人
			○	×			港南公園	若竹町 1-14-5	2.0m	1,000 人
			○	▲			若竹町東公園	若竹町 2-6	2.4m	636 人
			○	×			若竹町中央公園	若竹町 2-8	2.4m	697 人
				○			山形トヨタ自動車(株)酒田店屋上 駐車場	若竹町 2-1-2	2.5m	91 人
			○	▲			若原公園	若原町 10-14	2.5m	394 人
○			○	▲			ベルナール酒田	若原町 2-12	3.2m	227 人

## ②指定避難所

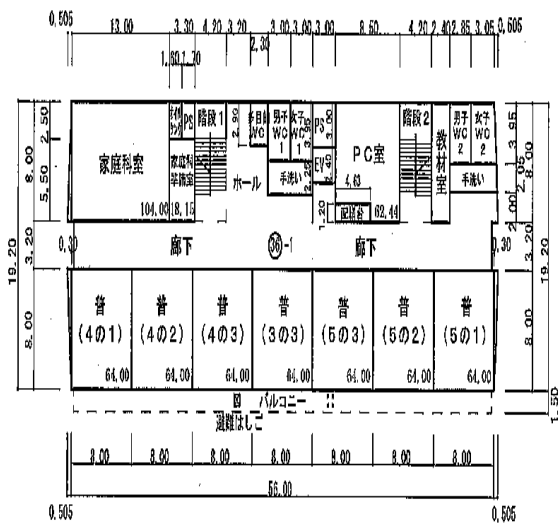
名称	所在地	標高	収容人員	電話番号
亀ヶ崎小学校	亀ヶ崎 2-3-55	2.9m	397 人	22-0455
酒田東高等学校体育館	亀ヶ崎 1-3-60	3.0m	579 人	22-0456
亀ヶ崎コミュニティ防災センター	亀ヶ崎 3-13-25	2.9m	119 人	43-6170
計	3 箇所		1,095 人	
港南コミュニティ防災センター	入船町 3-15	2.3m	93 人	22-4473
計	1 箇所		93 人	

## 資料2 亀ヶ崎小学校校舎図面

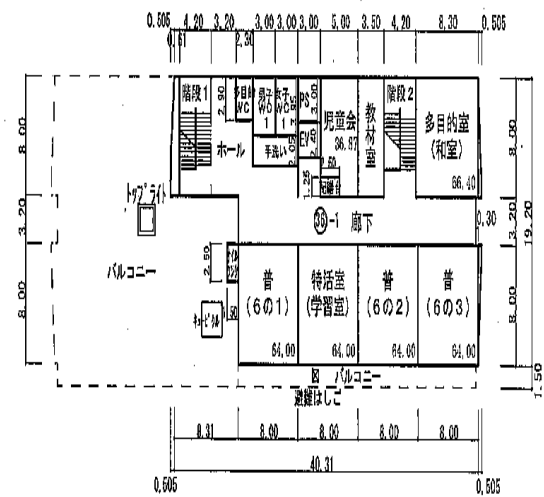




搭屋平面图



3階平面图



4階平面图

資料3 港南コミュニティ防災センター防災資機材

大 No	大分類	小 No	小分類	整備年月日	定数
1	情報連絡	2	スーパーメガホン(30W)	H9	2
1	情報連絡	4	トランジスターラジオ(400mW/5B)	H9	1
3	救出	6	救助ロープナイロン 200m	H9	2
3	救出	8	折畳式ノーパンクリヤカー	H9	1
4	救護	1	担架二つ折り式	H9	5
4	救護	2	救急医療セット 20 人用	H9	9
4	救護	3	難燃性アクリル真空パック毛布	H9	200
4	救護	4	乾電池対流式石油ストーブ	H9	14
4	救護	6	医薬品セット 絆創膏 5・湿布 5・外用 軟膏 5・消毒薬 10	R2.1	1
5	避難	1	強力ライト(乾電池式軽量型)	H9	4
5	避難	4	発電機・投光機(コードリール付)	H9	1
5	避難	5	ガス式発電機・投光機(コードリール 付)	H24	3
5	避難	9	LP ガスボンベ(5kg)	H24	3
5	避難	10	テント(3.6m*5.4m)	H9	3
5	避難	11	防災防水シート(3.6m×5.4m)	H9	15
5	避難	14	ポリバケツ	H9	30
5	避難	15	簡易トイレ(個)	H9	54
5	避難	16	簡易組立トイレ	H9	2
5	避難	9	マスク	R2	250
5	避難	10	アルコール	R2	5
5	避難	11	体温計(非接触式)	R2	1
5	避難	12	体温計(接触電子式)	R2	2
5	避難	13	避難所開設グッズ(ハンドソープ 5・ ペーパータオル 5・ディスポ手袋 2・ガ ウン 10・フェイスガード 5・スマホ充電	R2	1

			器セット・ビブス)		
6	給食給水	3	炊飯用釜(アルミ鋳物 18 升炊き)	H9	2
6	給食給水	6	鍋(アルミ打ち出し蓋付)	H9	5
6	給食給水	7	LP ガスコンロ(鋳物三重コンロ)	H9	5
6	給食給水	8	LP ガスボンベ(5kg調整器付)	H9	5
6	給食給水	9	給水袋	H24	200
8	水防用品	3	塩ビパイプ	H9	2

亀ヶ崎コミュニティ防災センター防災資機材

1	情報連絡	3	ハンドマイク	R2.2	3
2	初期消火	4	消火器 ABC10 型	R2.2	10
3	救出	1	金属はしご二連式	R2.2	3
3	救出	7	救助ロープナイロン 200m(100m)	R2.2	2
3	救出	8	折畳式ノーパンクリヤカー	R2.2	1
3	救出	9	一輪車	R2.2	1
3	救出	11	救命胴衣	R2.2	8
4	救護	1	担架二つ折り式	R2.2	5
4	救護	2	救急医療セット 20 人用	R2.2	10
4	救護	3	難燃性アクリル真空パック毛布	R2.2	350
4	救護	4	乾電池対流式石油ストーブ	R2.2	20
5	避難	1	強力ライト(乾電池式軽量型)	R2.2	10
5	避難	4	投光器 LED タイプ	R2.2	2
5	避難	5	投光器バルーン	R2.2	2
5	避難	10	テント(3.6m*5.4m)	R2.2	4
5	避難	11	防災防水シート(3.6m×5.4m)	R2.2	20
5	避難	14	ポリバケツ	R2.2	20
5	避難	15	簡易トイレ 200 回分	R2.2	3
5	避難	16	コードリール(ドラム)	R2.2	4
5	避難	17	ディーゼル発電機	R2.2	1
5	避難	18	LPガス式発電機	R2.2	1
5	避難	9	マスク	R2	250
5	避難	10	アルコール	R2	5
5	避難	11	体温計(非接触式)	R2	1
5	避難	12	体温計(接触電子式)	R2	2
5	避難	13	避難所開設グッズ(ハンドソープ 5・ ペーパータオル 5・ディスポ手袋 2・ガ ウン 10・フェイスガード 5・スマホ充電	R2	1

			器セット・ビブス)		
6	給食給水	1	LPガス炊き出しセット	R2.2	1
6	給食給水	1	8kg ガスボンベ	R2.2	1
6	給食給水	6	鍋(アルミ打ち出し蓋付)	R2.2	5
6	給食給水	7	LP ガスコンロ(鋳物三重コンロ)	R2.2	5
6	給食給水	8	LP ガスボンベ(5kg調整器付)	R2.2	5
6	給食給水	9	給水袋6L	R2.2	200
6	給食給水	10	給水用水槽(3000L)	R2.2	1
6	給食給水	16	餅箱ケース	R2.2	1
7	防火知識普及	7	訓練用水消火器	R2.2	10
8	水防用品	6	水土のう	R2.2	25



亀ヶ崎小学校防災資機材

1	情報連絡	2	スーパーメガホン(30W)	H9	0
1	情報連絡	4	トランジスターラジオ(400mW/5B)	H9	0
3	救出	6	救助ロープナイロン 200m	H9	2
3	救出	8	折畳式ノーパンクリヤカー	H9	1
4	救護	1	担架二つ折り式	H9	5
4	救護	2	救急医療セット 20 人用	H9	10
4	救護	3	難燃性アクリル真空パック毛布	H9	300
4	救護	4	乾電池対流式石油ストーブ	H9	20
4	救護	6	医薬品セット 絆創膏 5・湿布 5・外用 軟膏 5・消毒薬 10	R2.1	1
5	避難	1	強力ライト(乾電池式軽量型)	H9	10
5	避難	10	テント(3.6m*5.4m)	H9	4
5	避難	11	防災防水シート(3.6m×5.4m)	H9	50
5	避難	14	ポリバケツ	H9	10
5	避難	15	簡易トイレ(個)	H9	84
5	避難	20	タオル	H9	80
6	給食給水	3	炊飯用釜(アルミ鋳物 18 升炊き)	H9	2
6	給食給水	6	鍋(アルミ打ち出し蓋付)	H9	5
6	給食給水	7	LP ガスコンロ(鋳物三重コンロ)	H9	5
6	給食給水	8	LP ガスボンベ(5kg調整器付)	H9	4
8	水防用品	5	ブルーシート	H9	20

#### 資料4 港南・亀ヶ崎地区関係食料備蓄

##### 亀ヶ崎小学校食料備蓄内容

###### 【アルファ化米・ビスコ】

わかめご飯：650 食

五目ご飯：250 食

白がゆ：200 食

ゼリー：50 食

ビスコ缶：150 食（1 缶 1 食）

###### 【保存水】

500 ミリットル：504 本

2リットル：90 本

###### 【その他】

アルミブランケット：200 枚

ブルーシート：30 枚

トイレ袋 20 枚入：28 セット

マスク：250 枚

アルコール 5 本

ベッド（折りたたみ、キャンプ）25 台

体温計（非接触式）4 個

体温計（接触電子式）4 本

避難所開設グッズ 1 式

（ハンドソープ 5・ペーパータオル 5・ティッシュ手袋 2・ガウン 10・フェイスガード 5・スマホ充電器セット・ビブス）

段ボールベッド 20 台

間仕切り段ボール 20 セット

更衣室用ポップアップテント 4 基

圧縮毛布 40 枚

○本マニュアルの策定にあたっては、先進的に避難所運営の事前協議やマニュアル作成に取り組んでいる先進事例を参考にするとともに、【運営編・共通編】のマニュアルシート及び様式の一部については、宮城県仙台市が作成したものを活用させていただきました。ご支援をいただきました関係各位に心より御礼申し上げます。

避難所運営マニュアル（基本編・個別編）

問い合わせ

酒田市総務部危機管理課

電話 0234-26-5701

FAX 0234-22-5464